



はじめてとらきち君からの手紙を読む方へ、はじめ君とよう君は店長の孫です。多少の可愛いがりすぎは、お許し下さい。





はじめくん、お笑い芸人のみやぞんにそっくりだということが判明しました(笑)



ようくんは、何でもお兄ちゃんの真似をします。今日は一緒に勉強です。いつも仲が良く微笑ましいです(^)/

【今日の元気になる言葉】

命にかかわること以外
どうでもいいことばっかじゃねえかよ
(ちびまる子ちゃん父 ひろし)

ボクの父が、93歳で天国に召されました。日本人の男性の平均寿命は81歳ですから大往生です。サラリーマン定年後は、自転車、原付バイクで日本一周をし、山登りが好きだったので、70歳を過ぎても、同年代の人達を引き連れ、毎月山を登っていました。

晩年には、肺癌、脳梗塞も起こしましたが、エネルギーな人で、90歳を過ぎても自宅では、家族の世話になることなく一人で何でもこなしていました。きっかり、午後の5時になるとマグロを肴に350ml缶のビールを飲むのが日課でした。

しかし、頑固な人で人の言うことは全く聴きません！医者薬をたらふく飲んでいました。でも、松寿仙とバランスターWZだけは飲んでくれました。これが良かったのかな？と今では思っています。施設や病院にお世話になりましたが、3ヶ月くらいです。ボクがいつも言っている「人の世話にならず、元気で長生き」を達成できた父だと思います。

本人も含め家族で、「万が一の場合でも余計な延命治療はしない」と決めていたので、何度か勧められた胃ろうの措置も断りました。でも、人の生命力ってすごいなと思いました。何度か「もうダメかな？」と思ったときがありましたが、ブドウ糖と塩化ナトリウム(ポカリスエットのようなもの)だけの点滴で復活し、ヨーグルトなど食べられるようになった時もあったのです。

そう言えば、「他に異常がなければ、人間の心臓は160年動く」という最近の研究がありました。父も若い頃は剣道の師範を務めた位ですから、心臓は強かったのでしょうか。

国立病院機構東京医療センター(旧国立第二病院)に入院していましたが、現代医療に考えさせられました。4人部屋に父は入っていましたが、隣の父と同じくらいの年の女性は胃ろうをされていました。いつ行っても寝たきりで、眠ったままです。こんなに医療が進んで、世界第2位の長寿国と言われても、医療費がどんどん上がっていくのは、こういうことなのです。生かされる医療。ここの国立病院はわかりませんが、大きな私大病院、民間病院は、最後は自らの病院経営に走ります。

認知症が進み意識レベルがほとんどない患者に胃ろうを勧める。ボクのおじさんは肝臓癌で埼玉のある病院に入院しました。意識が無くなっているにもかかわらず、1cc70万円もする抗癌剤点滴を死ぬまで入れ続ける。オノドラの患者様は、脾臓癌で余命1年と宣告されたのに抗癌剤を投与する。意味あると思いますか？高額医療制度で患者負担は少なくなりますが、病院側には税金で多額の医療費が入るのです。でも、本来であれば医師達が考えるのは、患者第一です！目の前の患者が、人生最後の時を、苦しまず、「ふ〜」と最後の息をして亡くなる。これが、本来の姿だと思います。勤務医はしんどいと思います。家族の気持ちもわかります。でも、人は永遠ではない、いつか必ず終末が来る、大事なものは本人には「死んでいく権利」があるのです。ボクは、勝手に生かされてたまるかと思っているので、エンディングノートに書きました。「余計な延命治療は絶対するな！どんなに脅されても！ほっといてくれ！」てね(^)/

中村仁一先生の著書「大往生したけりや医療とかかわるな(自然死のすすめ)」(760円)をぜひ読んで下さい。スマホ、パソコンできる方は、長尾和宏先生のブログを見て下さい。父には最後まで色々教わりました。ありがとう！ロコも天国の入口で待っているし、ボクも明日か30年後かわからんけど、一緒にサッポロビール黒ラベル飲もうねオヤジ(*^_^*)